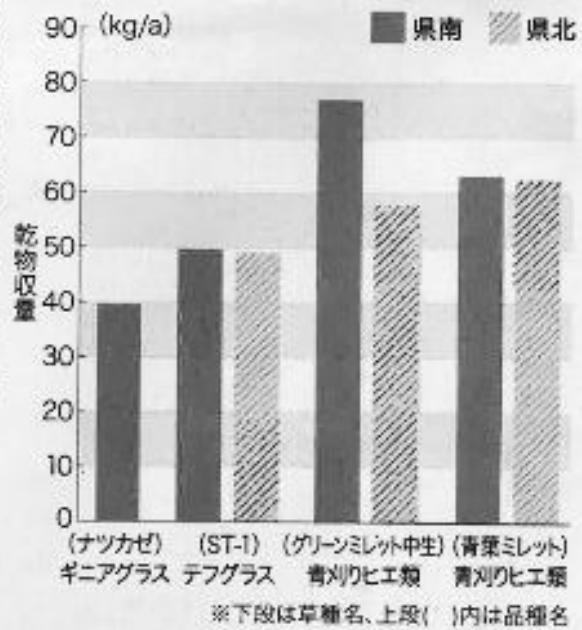


# 農業技術 フリスム

ここ数年、輸入飼料価格が高騰しており、養牛農家の生産コストが増加しています。そのため、所得の向上には自給飼料の活用による飼料費の低減が重要です。本県の夏季の自給粗飼料生産は、水田での作付けが全体の51%を占めますが、その10%当たり収量は畑の場合と比較すると半分程度という現状です。その原因の一つとして、地下水位が地下15%未満の排水不良圃場（ほじょう）の影響が考えられます。

## 排水不良圃場に最適な「グリーンミレット中生」優れる

排水不良圃場における暖地型飼料作物の乾物収量



そのため、額縁明渠（めいきよ）や心土破砕などの排水対策を行った上で、収量が確保できる暖地型飼料作物品種を栽培することが重要となります。

そこで、暖地型飼料作物6草種12品種から、排水不良圃場と同様の地下水位に調整したポット試験で3草種4品種を選定し、その結果、青刈りヒエ類の「グリーンミレット中生」が、他の品種と比較して、乾物収量が安定して優れており、排水不良圃場での暖地型飼料作物として最も有望な品種と考えられます。

（長崎県農林技術開発センター 緒方剛）